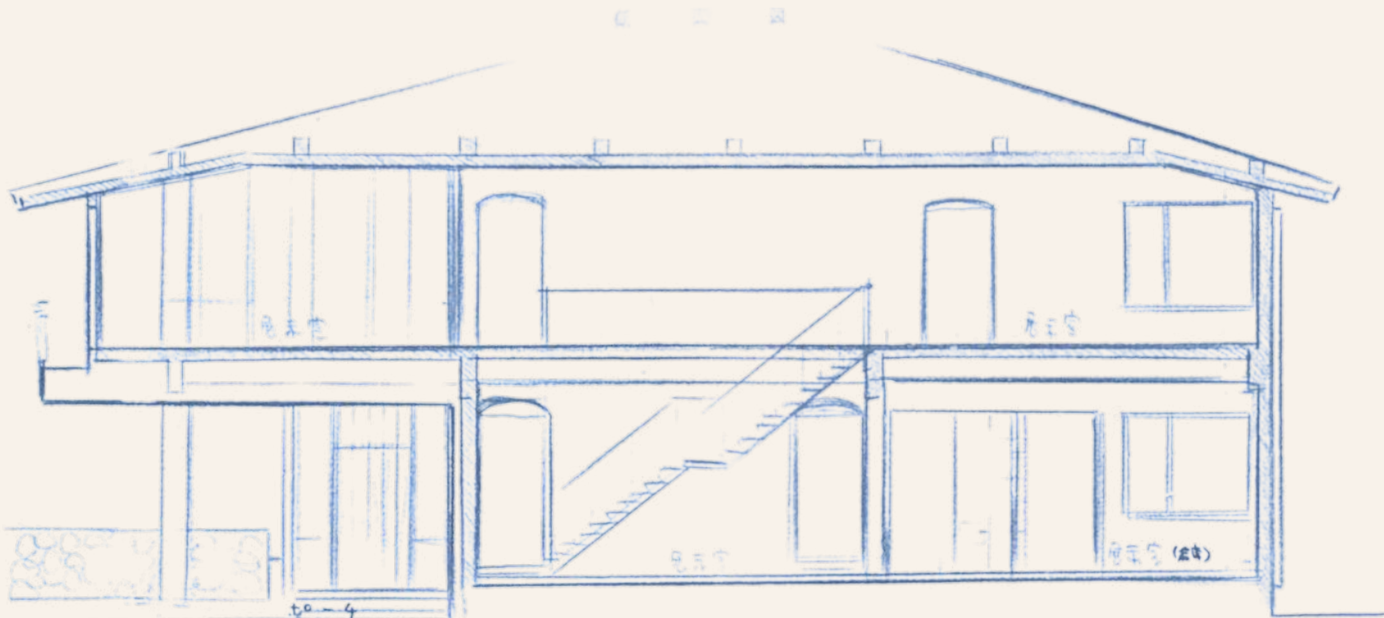




上遠野徹 「本郷新アトリエ断面図」1977年2月



建設現場での本郷新(左)と上遠野徹。1977年5月頃

建築家 上遠野徹と 本郷新の宮の森のアトリエ

晩年、生まれ育った札幌に
北国の四季の変化を感じながら
制作と展示ができる場を求めた本郷新。
彼の願いをかたちにしたのは、
北の風土に根ざしたモダニズム建築を
追求してきた上遠野徹。

現在、本郷新記念札幌彫刻美術館の
記念館となっている建物に結実した
二人の思いをたどります。

2022年

9月10日(土)～12月11日(日)

月曜休館 [ただし、9/19と10/10(月・祝)は開館し、9/20と10/11(火)休館]
10:00～17:00(入館は16:30まで)

観覧料半額キャンペーン

一般 600円(500円) ▶ 300円(250円)、65歳以上 500円(400円) ▶ 250円(200円)
高校・大学生 400円(300円) ▶ 200円(150円) 中学生以下無料 ()内は10名以上の団体料金
札幌市文化芸術鑑賞促進事業により、展覧会の観覧料が通常価格の半額となります。
※居住地にかかわらず、来館されるすべての方が対象となります。
※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、事業が中止・延期となる場合があります。

主催：本郷新記念札幌彫刻美術館(札幌市芸術文化財団)

後援：北海道、札幌市、札幌市教育委員会

協力：上遠野建築事務所、公益社団法人日本建築家協会北海道支部、
北海道建築研究会、北海学園大学米田浩志研究室

本郷新記念札幌彫刻美術館
Hongo Shin Memorial Museum of Sculpture, Sapporo



本郷新記念札幌彫刻美術館の記念館の建物は、本郷新(1905-1980)が生前に、アトリエとギャラリーを兼ねた邸宅として、北海道を代表する建築家上遠野徹(かとの てつ、1924-2009)に設計を依頼し、1977年に完成したものです。本展では、この建物に込められた両者の思いを、それぞれの仕事を通して見ていきます。

第一章 上遠野徹の住宅建築 1957-1978

上遠野徹が本郷新のアトリエ設計までに手掛けてきた、木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造それぞれの代表的な住宅建築を、写真、平面図、1/100外観模型、設計者のコメントにより紹介します。

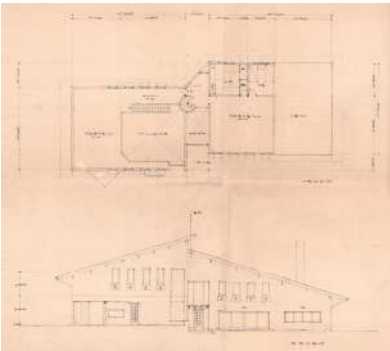


上遠野徹自邸 1968年 札幌 鉄骨造

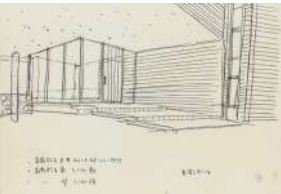


第二章 宮の森のアトリエができるまで

「自然の環境を生かし、四季の変化のすばらしい北ぐにの条件を存分に入れたアトリエ」という本郷の要望を、上遠野はいかにかたちにしていったのか。東京-札幌を往復しながらのやりとりのなかで描かれた、初期プランや、図面、イメージスケッチなどにより、その過程をたどります。また、今回新たに作成した1/50模型も展示します。



最終プランと異なる山小屋風の初期図面 1976年頃



玄関ポーチのイメージスケッチ 1977年2月頃



実際の玄関ポーチ

第三章 本郷新が宮の森のアトリエで過ごした日々

1977年11月にアトリエが完成すると、本郷は東京の自宅と頻繁に行き来し、翌1978年には1年の1/3をここで過ごしています。滞在日やその間の行動を追いながら、宮の森で制作された作品を紹介します。



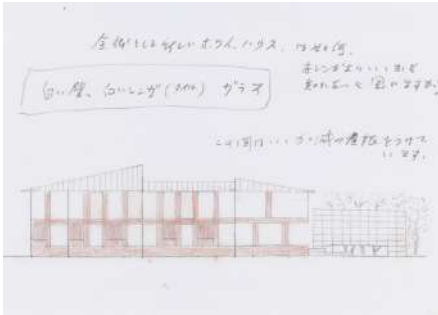
《自画像》1977年 油彩、キャンパス



アトリエで制作中の自画像と本郷新 1977年12月9日

第四章 彫刻の美術館へ

宮の森のアトリエでの暮らしを満喫していたのも束の間、1979年2月に東京で病に伏し、再び訪れることは叶いませんでした。闘病を続けていた10月には、この建物と敷地、さらに全作品を次代のために寄贈することを北海道と札幌市に申し出、彫刻美術館の設立に向けて動きはじめます。関係者への手紙や構想図などの資料から本郷の思いをたどるとともに、入院を繰り返すなかで制作した彫刻、素描、草稿を通して、最後まで創作に向かい続けた姿勢を紹介します。



本郷が上遠野に送った、隣接地に建てる新しい美術館の外観構想図 (1980年1月)



「彫刻十戒」草稿 (1979年)

第五章 記念館—宮の森のアトリエのいま

美術館設立の実現に向かって着実に進んでいることを見届け、本郷新は1980年2月13日に他界しました。宮の森のアトリエは、翌1981年6月、札幌彫刻美術館の記念館として正式オープンしました。以来、ギャラリー、アトリエ、ロビーとして設計された各スペースには、本郷が手掛けたスケールの大きな野外彫刻の石膏原型やブロンズ、木彫などの代表作のほか、制作の道具、家具などが常設展示されています。記念館にする際、収蔵庫や事務室などのバックヤードをつくるために改修していますが、本展開催に合わせ、仮設壁の一部撤去し、建設当時の姿にできるだけ近づけるとともに、会期中、これまで公開していなかった居住部分の階段や寝室もご覧いただけます。



現在の記念館内。吹き抜けや橋状の通路により、彫刻を多角的に鑑賞できる空間となっている。



居住部のアトリエ(居間)から2階の寝室に通じる緩やかな階段(会期中のみ公開)

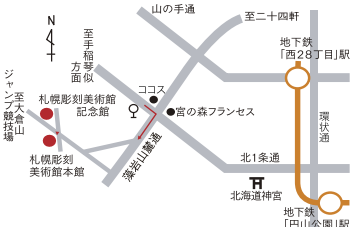
関連事業

- 建築家による記念館探検ツアー(事前申し込み)
普段公開していないスペースを含め、記念館内を建築家とともにめぐりながら解説していきます。
※開催日、案内者、申込み方法など詳しくは、当館ホームページをご覧ください。
- 無料開放日
11月3日(木)文化の日
当日は「サンクスデー」として、さまざまなイベントを開催します。

あわせてご覧ください

北海道の建築展 2022

9月23日(金・祝)~10月10日(月・祝)
札幌市中央区宮の森4条12丁目
札幌市立美術館
観覧料: 一般500円、高大生300円 中学生以下無料
主催: 公益社団法人日本建築家協会北海道支部



交通アクセス

- 公共交通機関をご利用の場合
地下鉄東西線「西28丁目」駅バスターミナル2番のりばからジェイ・アール北海道バス山の手線(循環西20(神宮前先行り))乗車(約5分)、「彫刻美術館入口」下車、徒歩約10分
- タクシーをご利用の場合
地下鉄「西28丁目」駅から約5分
- お車をご利用の場合
市内中心部より約15分(無料駐車場10台あり)

本郷新記念札幌彫刻美術館

Hongo Shin Memorial Museum of Sculpture, Sapporo
札幌市中央区宮の森4条12丁目
電話 011-642-5709
<http://www.hongoshin-smos.jp>
最新情報はSNSで更新中
Twitter Facebook Instagram

